

# 仏の願い

平成 20 年 西雲寺だより 夏号

## 永代経のご案内

7月10日(木)～11日(金)

10日・・・・・・・・お速夜(2:00～) お初夜(7:00～)

11日 お日中(10:00～) お速夜(2:00～) お初夜(7:00～)

法話 福井 奥田順誓師

11日はバスが出ますのでご利用下さい

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居經由  
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～国見～鮎川～小丹生經由

おさそい合わせの上、  
多数ご参詣下さい。



## 人間になる

六月八日午後、歩行者天国で賑わう秋葉原で、七人が殺害、十人が重軽傷を負うという無差別殺人事件が起きました。最近「誰でもよい、人を殺してみたかった」という人のいのちを無視した反社会的な事件が多発しているようです。その背景に一体何があるのだろうか。犯人は犯行の二日前から携帯サイトに刻明に書き込みをして犯行を予告している。その中に「ああ住所不定無職になったのか、ますます絶望的だ」それでも人が足りないから来いと電話がくる。俺が必要だからじゃなくて人が足りないから。誰が行くかよ」生活の不安、誰からも必要とされていない孤独感がにじみ出ている。犯人は短大を卒業して数年間派遣社員を転々として、人間的関係もほとんど無かったようだ。サイトの福井へ来てナイフを購入した時、「店員さん、いいだった。人間と話すのっていいね」と書き込んだ。淋しい人生を送ってきたんだなあと思わず同情してしまいました。

お同行にお配りしているカレンダーの四月のことばに「網の目一つだけ取り出せない、無数の縁によって結ばれている」

とありました。私たちのいのちは無数のつながりによって成り立っているのです。網の目一つ引つ張り出したらすべての網の目がくつついてくるのです。その無数のつながりの中で人間のいのちは育まれ人間となっていくのです。

一九二〇年、インドの西ベンガル州の小さな村で、人間らしき生き物が狼と一緒に洞穴で暮らしているのが見つかりました。それは確かに人間の女の子で、八歳と二歳ぐらいでした。カマラ、アマラと名づけられ、懸命に人間としての教育がなされましたが、狼としての習性はとれず若死にしまいました。

人間と他の動物とはどう違うのか。それはお母さんのお腹の中にいるときから、他の人間とのつながりを求めている存在だということ。目の見えないときには耳または触覚で自分をかばってくれているのです。支えてくれるものを懸命に探しているのです。やがて目が見えるようになるとお乳を飲みながら母親の目を見るのです。母親の目を見つめて母親も自分の目を見つめてくれているとわかると安心してお乳を飲むのです。NHKの特集で「笑わなくなった赤ちゃん」という番組がありました。赤ちゃんが母親の目を見つめたとき母親が横を向いてしまつてみると、笑いかけた顔がだんだんとひきつるようになって最後には笑わなくなる

のだそうです。人間は見つめられているということにおいて育つのです。その見つけ合いがないと人間らしさが失われていく、それと共に人間の生きる場所も失われていくのです。

念仏申すということは、私が仏を念ずる、仏の名を称えることだと思いがちですが、そうではなく念ずる仏というのが先です。常に私を念じていて下さる仏さまがおられるからそのおこころに出会いお念仏申すことができるのです。それは私たちが何かにゆきづまり悲しみや苦しみの中で思わず「お母さん」と呼ぶ、その呼び声の中に生きている親に例えることができます。それはいつも私のことを心配してくれている親であり私の中に生きていてくれる親です。私のことを常に念じてくれているということがある。おそ私をしてお母さんと呼びさせるのです。お念仏とは常に私を念じていて下さる仏さまのこころに出会うことであり、念ぜられて自分の命に出遇っていくことです。

私たちのいのちは決して一人のものではなく無数の縁によって結ばれ、また仏さま、両親先祖から願われ、念ぜられている尊いいのちを生きているのです。その尊いいのちが、お念仏によって呼び覚まされるのです。(住職)



寄り添う

(福井市) 田中 育子 (68)

友人のお父さんが亡くなって三ヶ月になる。丁度私が病院にお見舞に行ったとき、お母さんと二人だけで見送った。息子さんや娘さんに代わって最期のお別れをする事になったのは感慨深い。羨ましいほど静かで美しい九十四歳の旅立ちだった。葬儀が終ると、多忙な息子さんは東京へ、娘さんも大阪へ帰り、お母さんが一人残された。お父さんが元気な頃はどちらか一人になったら息子さんの所に行くと言っておられたが、いざそうなってみるとやはり住み慣れた福井を離れたくないらしい。私は夫を亡くして十年になるが、当時の寂しさは表現のしようがなかった。特に夕方の寂しさは耐え難く、叫び出したくなるほどだった。その時支えてくれたのは、同じようにご主人を亡くしていた近くの友だった。三ヶ月の間泊ってくれたり、家に招いてくれたり、一日も欠かさず寄り添ってくれた。どんなに嬉しく救われたことか、今思い出して毛胸が熱くなる。

それで、私もお母さんがデイホームから帰る頃、夕飯の食べ物を作って通うことにした。一緒にお経をあげ、ご飯を食べ、お父さんのことを話して帰った。これまでお彼岸やお盆にお父さんと一緒に、お勤めをすることは何度もあったが、お母さんとは始めてだ。慣れないお母さんが私について一所懸命読経される。毎日繰り返しているうちに、今までは一人でもあげられるようになったと嬉しそうに伝えてくれたお母さんの顔を見て私も嬉しくなった。寂しさは簡単に癒えるものではないが、少しずつ元気が戻っている姿を見るとたまらなく嬉しい。もう大丈夫と言われるお母さんの意志を尊重して、少し間を置きながら訪ねようと思う。自立を妨げないために、届けるお惣菜も一品ずつ減らそうとも考えている。なぜなら、お母さんは元々お料理が得意だから、台所に立つことで一層元気を取り戻されると思うからだ。そして、私の友が今も私にしてくれているように、そっと見守っていこうと思う。



“ミミが残してくれたこと” 杉田 紘昭 (66才)  
福井市、宝永。



昨年の暮に、17年間苦楽を共にした我家の愛犬が亡くなった。

おどろき離れせず、親を探し廻って泣きあかした犬に  
つい、添い寝してしまつたこと。

犬嫌いの家内が「ミミ」という名前をつけてくれたこと。

子供達もよく可愛がって面倒見てくれたこと

雨の日も、月の日も、雪の日も、二日酔いでつらい時も、

“そんなの関係ねエ”と目覚し時計のように正確に吠えて  
朝の散歩をさせられたこと等、次々と走馬灯のように思い出される。

犬嫌いの家内には「ミミにやさしくしてやれば、自分があの世に行って

迷っている時、必ずこの犬が極楽浄土に導いてくれるから」と

言おう、ふんと鼻で笑いながらも、最後まで一生懸命

面倒みてくれたことに感謝をしている。

犬が死んで、東山清掃センターへ出そうとしたが、子供達に  
ゴミ扱いするのと猛反対され、やむなく、ペットの葬儀屋で”  
弔うことにした。私は死んだ時にねんごろに弔うより、  
生きているときに精一杯のことをやるのが大事と考えていたし、

又、そのように接してきたつもりだった。

しかし、ミミの死を可愛想に思い  
涙を流してくれた家族のやさしさが  
何よりも嬉しかった。

たかが犬一匹の命でなく、  
命あるものの、生きることの尊さを  
思い知らされました。

ありがとう。



20.  
ありし日のミミ



# 本山落慶法要の感想

帰りの道中、揺れるバスの中で感想をお願いしました。西雲寺HPに全部を掲載しております。ぜひご覧下さい。

おごそかの中にも温かみのある落慶法要に参加させて頂き、有がとうございました。  
帰敬式では法名に自分の名の一字が有り、びっくりするやら、嬉しいやら。これで本当に安心しました。お世話下さった皆様に心より御礼申し上げます。  
六十代女性

おかみそり

法名 いただき

心揺れ動く

仏弟子に一步

ふみだす心かな

若夫婦気くばり心

春の風

(M・S)

亡き父が「ひちりき」をしていたのを思い出しました。感無量でございました。お寺の報恩講で、腰が曲がっても吹いていたのを思い出しました。おかげさまで、本当に嬉しかったです。

口述筆記 七十代女性

前々から、もういいかげんに「帰敬式」おかみそりを頂かなければと思っていました。  
今日は御門じき様に目の前でお会い出来ました事、本当にありがたく、又一人一人おかみそりを頂けた事、一生の私の宝です。ありがとう御座居ました。

釋妙順

一生に一度会えるか判らない法要に会え、そこで高僧方と一緒に唱和出来る喜びを感謝と共に味あわせて頂き有難うございました。  
残念なのは説法の時間が短く、唯説弥陀本願海を更に深く拝聴したく思いました。「仏法は聴聞に極まる」を心に掛け精進したいと思えます。

無記名

## 文芸欄

一、亡き祖父の古き我が家で平を合す。  
ニ、五十回忌法要にならす鐘の音  
薄くひりゆく血縁思ふ。

五十回忌の法要をおつとめになった後、「恥ずかしいので匿名に」として「さんより」いただきました。

# 中高生からの

親鸞聖人 しんらんしょうにん

750回大遠忌 だいおんき

# 素朴な疑問のコーナー

素朴な疑問、お寄せ下さい。

Q、親鸞聖人しんらんしょうにんって？

A、今から836年前、5月21日生まれ。出身は京都。9歳で僧になり、比叡山で厳しい戒律を守って暮らしました。しかし、悩みがつのつて29歳で下山。法然先生が念仏する姿に出あいます。念仏といえは、劣等生の修行という位置づけでした。でも法然先生は「私はただ念仏」と明るい姿でした。親鸞さんは「念仏は修行じゃない、広い世界からの呼び声だったんだ」と感動されたのです。そして「広い世界を知ろう、呼び声に従おう」と呼びかけました。それは、死後ではない現在の救いでした。優等劣等、健康病弱、貧富、僧俗、差別のない救いでした。だから、親鸞さんは「聖人」と敬われ、お百姓・商人さん・職人さん達の間で何百年と受け継がれてきたんです。そう、特権階級の間で敬われてきたんじゃないんです。

終生、僧侶でもなく俗人でもない暮らしを送られ、11月28日、90歳(数え年)で息を引き取られました。

Q、大遠忌だいおんきって？

A、家で法事をした経験ありませんか？普通は1周忌、3回忌・50回忌くらいまでだけど、今度のは遠くを偲ぶ750回忌っていうわけです。大きい数字ですね。そんなすごい人？絶対間違ったことを言わなかったの？いやいや、人柄を敬ってきたんじゃないんです。親鸞さんの教えてくれた広い世界に感動してきた歴史です。前回の700回忌は昭和38年。年配の方はご存じかも知れません。余談ですが、大がつくと大遠忌(だいおんき)、御がつくと御遠忌(ごえんき)と読み慣わすそうです。・ややこしいなあ・



Q、この額は何だろう？

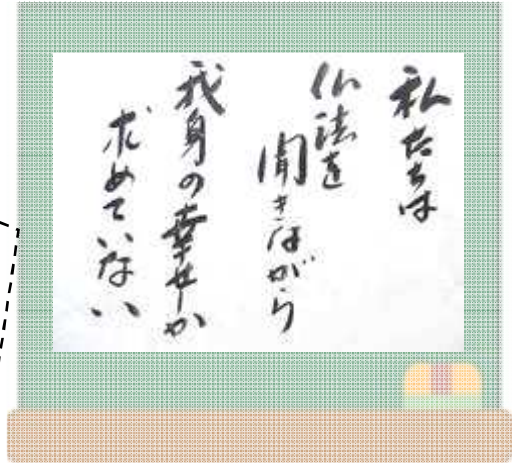
A、見真(けんしん)とは、親鸞さんの別名です。ほ

ら、空海っていうお坊さんは「弘法大師」って呼ぶでしょう。それと同じで、親鸞は見真大師と呼ばれるのです。(かなりマイナーですが、この名前は、明治天皇から贈られました(明治9年)。ちょうど、真宗の各本山が維新の戦いで焼かれ、再建に苦しんでいる最中でした。そんな時、陛下からの贈り名は人々の心を強くしたことでしよう。けれど、その後、真宗教団は権力に追従し、戦争に少なからず荷担してしまつたという反省があります。こんな歴史全体を見真の号を通して受け止めたいと思います。

「弘法 法を弘める」という名前は分かりやすいですね。じゃあ、「見真 真を見る」って一体どういう意味なんでしょう？ウーン・これは考えてみる必要がありそうです。



## 山門揭示板



昨年の世相を表すことばは「偽」でした。食品の産地や賞味期限の偽装が相次いで明るみに出、今春には一流料亭が倒産に追い込まれました。「偽」という字は人の為にと書いて偽と読ませます。私たちは人の為にやっていると思っけても結局自分の為にやっている事が多いのではないのでしょうか。

仏法においては「真」に対して「偽」といいます。その生き方は表面には表れないけれども、聞法を重ねることによって知らされる真実に背いた深い罪であります。それを罪福信といえます。罪福信とは罪を恐れ幸せを願う心ですが、都合の悪い災いは逃れ、都合のよい幸せは手に入れたいという身勝手な欲求です。すべての者が共に救われていく教えを求め、生死を超えていく道を求めながら、内心深く仏法を利用して我身の幸せしか求めていないのが私たちであります。(住職)

私の思い違いを白状します。  
1つ目、ご本尊はあみだ仏だと思ってました。それが違うんです。ご本尊は「あみだ仏の願い」でした。それは「あみだ国に生まれよという願い」でした。「あなたの願とは方向が全く違うぞ」という呼びかけでした。この願いが、私たちのご本尊、なむあみだぶつの中身なんです。お内仏のあみだ様の姿には、そういう意味があるんです。金ピカの近寄りがない存在を拝むのではなくて、仏の願いを聞くことが大事なんだと、そのように親鸞聖人はすすめておられたのでした。

2つ目、私は正信偈のこの句を、法蔵菩薩は仏様の中で一番すごい願を立てられたのだと読んでました。ちよつと法蔵菩薩さん偉そうやなあと引つかかってました。それが違うんです。法蔵菩薩は、先輩の仏さまたちを尊敬して教えを乞い、先輩たちはみな法蔵の願いをほめたたえたのでした。なるほど、法蔵菩薩だけがすごいんじゃないかと、お互いに敬い合っているから「無上殊勝」なんです。そうすると、お互いに尊敬し、たたえ合うという先輩方の後ろ姿こそ、「あみだ国」の姿じゃないかと思えます。(編者)

## 建立無上殊勝願

こんりゅうむじょうしゅしょうがん

親鸞作『正信念仏偈』より

読み方 (法蔵菩薩は)

無上殊勝の願を建立す。

無上 上が無い

殊 ことさら  
勝 すぐれた

1 報告

本山お差し向け布教がつとまりました

6月14、15日 西雲寺にて

16、17日 安田地区にて

17、18日 本堂地区にて



布教使（新潟）

日野宣也師

お説教の言葉

極悪深重の衆生は

他の方便さらになし

ひとえに弥陀を称してぞ

浄土にうまるとのべたまう

図書紹介

『兔の眼』 灰谷健次郎著



理論社 旧版 ¥1785



理論社 新装版 ¥1365



フォア文庫 ¥693



角川文庫 ¥600

自分が小学生の親だと仮定して、次の足し算を考えてみて下さい。反抗して手を洗わない浩二君+我が子のクラスの給食当番のクラスに編入? 答えはどうでしょう。「我が子にマイナス」じゃないでしょう。衛生上問題、教育効果に疑問、競争社会は甘くないなど、立派な理由も挙がるでしょう。もつと単純に、1人のために多数が不利益をこうむるなんて!と思ったりします。いや、その子のためだなどと、真面目に言うかも知れません。

僕ら大人は「真面目に間違えてる」そう言われたような気がします。「大人の理由は立派だ、大多数の大人が真面目に考えた結果だ、でも、それで本当に幸せ?」子供にそう問われたように感じました。小説では、悲しみの空白を胸に秘める登場人物たちが、理屈を超えた幸せがあることを知らせてくれるようです。中学生からどうぞ。

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**  
 住職 護城一寿  
 筆頭総代 鈴木春夫  
 編集責任者 護城一哉  
 〒910-3523 福井市武周町5-2  
 電話 0776-97-2138  
 メール kngojo@mx3.fctv.ne.jp  
 ホームページ http://arukou.net/

みなさんの声 大募集!

「西雲寺だより」は、お同行の皆さんと作る新聞です。みなさんの声をお聞きしながら、より身近な新聞にしていきたいと思っておりますので、原稿や文芸作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。